令和８年６月定例記者会見要旨（令和８年６月２９日）

１．人材確保策として先ごろ示された「有償インターンシップ」制度。県内自治体では初という面白い試みと思いますが、ここまでの応募状況はいかがでしょうか。また、内外からの反響などありましたら、お聞かせください。

有償インターンシップにつきましては、応募締め切りを７月３日としておりますが、現在の応募者数は２名となっております。

民間企業等のインターンシップは、一部では短期化が進んでいるといわれておりますが、大学の就職支援担当者からは、仕事の業務をよく知りたいという意欲的な学生からのニーズが多いと伺いました。

本市の有償インターンシップは、９日～１２日程度と長期間実施し、会計年度任用職員として雇用することで、より深く業務を知ることができます。公務員と一言で言っても、市役所、県庁、国、警察など就職先は様々で役割も異なります。本インターンシップでは、優秀な人材の獲得や入庁後のミスマッチの防止だけではなく、参加者が市役所の業務を深く知り、今後の進路の指針となることで、就職活動をより有意義なものにしていただければと考えております。

もちろん、民間志望の学生のかたも応募できます。売り手市場ともいわれる今だからこそ、参加者のかたがたが、一度自身を振り返り本当にやりたいことを見つけ出せることを、心より願っております。

２．８月投開票の知事選で善通寺市は電子投票を実施する可能性があります。坂出市としての電子投票に対するスタンスはどうでしょうか。

電子投票の実施につきましては、書き間違いなどによる無効票や疑問票を防止でき、投票者の意思をより明確に反映するとともに、選挙結果を早く知ることができるなど、投票をするかたにとって利便性が向上するだけでなく、事務負担の軽減にもつながります。

一方、電子投票の導入には、システム障害、投票データの改ざんリスクなどのセキュリティ上の懸念、導入費用の増大、端末操作をサポートする人員の確保といった課題が想定されます。

また、国政選挙においては、現行の公職選挙法に電子投票の規定がなく、電子投票を実施できないため、投票方法の差異により混乱が生じるという課題もあります。

坂出市といたしましては、市民の皆さま一人一人の大切な一票が有効に反映されるよう、今後とも国の動向や他自治体の導入事例等を注視しながら慎重に検討してまいりたいと考えております。